

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成 17 年 8 月 11 日 (2005.8.11)

【公開番号】特開 2003-215707 (P2003-215707A)

【公開日】平成 15 年 7 月 30 日 (2003.7.30)

【出願番号】特願 2002-13485 (P2002-13485)

【国際特許分類第 7 版】

G 0 3 B 21/14

G 0 3 B 21/00

G 1 0 L 15/00

G 1 0 L 15/24

G 1 0 L 15/28

H 0 4 N 5/74

// G 0 6 F 3/16

【F I】

G 0 3 B 21/14 Z

G 0 3 B 21/00 D

H 0 4 N 5/74 Z

G 1 0 L 3/00 5 5 1 G

G 1 0 L 3/00 5 5 1 F

G 1 0 L 3/00 5 7 1 G

G 1 0 L 3/00 5 7 1 K

G 1 0 L 3/00 5 1 1

G 0 6 F 3/16 3 2 0 B

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 1 月 21 日 (2005.1.21)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の名称】プレゼンテーションシステムならびにプロジェクションシステム

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

プロジェクタと前記プロジェクタを音声によって遠隔制御可能なマイクロホン付きコマンドとを有し、このマイクロホン付きコマンドから出力された音声データによって前記プロジェクタの動作制御を可能とし、

前記マイクロホン付きコマンドは、音声を入力する音声入力手段と、前記音声を前記プロジェクタ側に音声認識させるかまたは音声認識させないかを設定する操作手段と、前記音声を音声データに変換する変換手段とを有し、

前記プロジェクタは、プロジェクタ機能動作部と、前記マイクロホン付きコマンドから出力された音声データのうち、前記操作手段にて音声認識させるとされた音声データを認識する前記音声認識手段と、プレゼンテーション用データを入力可能なプレゼンテーショ

ン用データ入力手段と、入力されたプレゼンテーション用データを処理して前記プロジェクトから出力すべきデータを生成するとともに前記音声データを受けて前記プロジェクト機能動作部に対する動作制御信号を生成するプロジェクト制御手段とを有する、

ことを特徴とするプレゼンテーションシステム。

【請求項 2】

前記プレゼンテーション用データ入力手段は、前記プレゼンテーション用データが記憶された記憶媒体を前記プロジェクトに装着可能とするスロット部と、前記プロジェクトをネットワークに接続可能とするネットワーク接続部と、の少なくともいずれか一方を有することを特徴とする請求項 1 記載のプレゼンテーションシステム。

【請求項 3】

前記プロジェクトは、前記プレゼンテーション用データ入力手段に入力されたプレゼンテーション用データを記憶する記憶手段を有することを特徴とする請求項 1 または 2 記載のプレゼンテーションシステム。

【請求項 4】

前記プロジェクト制御部から前記プロジェクト機能動作部に対して出力される動作制御信号は、表示する画面の順方向及び前記順方向とは逆の逆方向の送りを制御する信号、画面を選択するための信号、前記画面に一覧表示を行わせるための信号、前記プレゼンテーション用データが複数のファイルに分かれて存在する場合は、それぞれのファイルの切り替えや選択を行わせるための信号の少なくとも 1 つを含むことを特徴とする請求項 1 から 3 のいずれかに記載のプレゼンテーションシステム。

【請求項 5】

プロジェクトと前記プロジェクトを音声によって遠隔制御可能なマイクロホン付きコマンドとを有し、前記マイクロホン付きコマンドから出力された動作制御信号によって前記プロジェクトの動作制御を可能とし、

前記マイクロホン付きコマンドは、前記音声を入力する音声入力手段と、前記音声入力手段に入力された前記音声を音声データとして認識する音声認識手段と、前記音声を前記音声認識手段で音声認識させるかまたは音声認識させないかを設定する操作手段と、前記操作手段の設定の結果を受けて、前記音声認識手段からの音声データに対応する動作制御信号を生成するコマンド制御手段とを有し、

前記プロジェクトは、プロジェクト機能動作部と、プレゼンテーション用データを入力可能なプレゼンテーション用データ入力手段と、入力されたプレゼンテーション用データを処理して、出力すべきデータを生成するとともに前記プロジェクト機能動作部への動作制御信号を出力するプロジェクト制御手段とを有する、

ことを特徴とするプレゼンテーションシステム。

【請求項 6】

前記プレゼンテーション用データ入力手段は、前記プレゼンテーション用データが記憶された記憶媒体を前記プロジェクトに装着可能とするスロット部と、前記プロジェクトをネットワークに接続可能とするネットワーク接続部と、の少なくともいずれか一方を有することを特徴とする請求項 5 記載のプレゼンテーションシステム。

【請求項 7】

前記プロジェクトは、前記プレゼンテーション用データ入力手段に入力されたプレゼンテーション用データを記憶する記憶手段を有することを特徴とする請求項 5 または 6 記載のプレゼンテーションシステム。

【請求項 8】

前記マイクロホン付きコマンドから前記プロジェクトに対して出力される前記動作制御信号は、表示する画面の順方向及び前記順方向とは逆の逆方向の送りを制御する信号、画面を選択するための信号、前記画面に一覧表示を行わせるための信号、前記プレゼンテーション用データが複数のファイルに分かれて存在する場合は、それぞれのファイルの切り替えや選択を行わせるための信号の少なくとも 1 つを含むことを特徴とする請求項 5 から 7 のいずれかに記載のプレゼンテーションシステム。

**【請求項 9】**

プロジェクタと前記プロジェクタを音声によって遠隔制御可能なマイクロホン付きコマンドとを有し、このマイクロホン付きコマンドから出力された音声データによって前記プロジェクタの動作制御を可能とし、

前記マイクロホン付きコマンドは、前記音声を入力する音声入力手段と、前記音声を前記プロジェクタ側で音声認識させるかまたは音声認識させないかを設定する操作手段と、前記音声を音声データに変換する変換手段とを有し、

前記プロジェクタは、プロジェクタ機能動作部と、前記マイクロホン付きコマンドから出力された音声データのうち、前記操作手段にて音声認識させるとされた音声データを認識する音声認識手段と、プレゼンテーション用データを入力可能なプレゼンテーション用データ入力手段と、入力されたプレゼンテーション用データを処理して当該プロジェクタから出力すべきデータを生成するとともに前記音声データを受けて前記プロジェクタ機能動作部に対する動作制御信号を生成するプロジェクタ制御手段とを有する、

ことを特徴とするプロジェクションシステム。

**【手続補正 3】**

**【補正対象書類名】**明細書

**【補正対象項目名】**0013

**【補正方法】**変更

**【補正の内容】**

**【0013】**

**【課題を解決するための手段】**

上述した目的を達成するために、本発明のプレゼンテーションシステムは、プロジェクタと前記プロジェクタを音声によって遠隔制御可能なマイクロホン付きコマンドとを有し、このマイクロホン付きコマンドから出力された音声データによって前記プロジェクタの動作制御を可能とし、前記マイクロホン付きコマンドは、音声(例えばプレゼンテーションに用いることが出来る音声であり、プレゼンタに限らない)を入力する音声入力手段と、前記音声を前記プロジェクタ側で音声認識させるかまたは音声認識させないかを設定する操作手段と、前記音声を音声データに変換する変換手段とを有し、前記プロジェクタは、プロジェクタ機能動作部と、前記マイクロホン付きコマンドから出力された音声データのうち、前記操作手段にて音声認識させるとされた音声データを認識する音声認識手段と、プレゼンテーション用データを入力可能なプレゼンテーション用データ入力手段と、入力されたプレゼンテーション用データを処理して当該プロジェクタから出力すべきデータを生成するとともに前記音声データを受けて前記プロジェクタ機能動作部に対する動作制御信号を生成するプロジェクタ制御手段とを有している。

**【手続補正 4】**

**【補正対象書類名】**明細書

**【補正対象項目名】**0016

**【補正方法】**変更

**【補正の内容】**

**【0016】**

また、前記プロジェクタ制御部から前記プロジェクタ機能動作部に対して出力される動作制御信号は、表示する画面の順方向及び前記順方向とは逆の逆方向の送りを制御する信号、画面を選択するための信号、前記画面に一覧表示を行わせるための信号、前記プレゼンテーション用データが複数のファイルに分かれて存在する場合は、それぞれのファイルの切り替えや選択を行わせるための信号の少なくとも1つを含んでいる。

**【手続補正 5】**

**【補正対象書類名】**明細書

**【補正対象項目名】**0017

**【補正方法】**変更

**【補正の内容】**

## 【 0 0 1 7 】

また、本発明のもう一方の発明であるプレゼンテーションシステムは、プロジェクタと前記プロジェクタを音声によって遠隔制御可能なマイクロホン付きコマンドとを有し、このマイクロホン付きコマンドから出力された動作制御信号によって前記プロジェクタの動作制御を可能とし、前記マイクロホン付きコマンドは、前記音声を入力する音声入力手段と、前記音声入力手段に入力された前記音声を音声データとして認識する音声認識手段と、前記音声を前記音声認識手段で音声認識させるかまたは音声認識させないかを設定する操作手段と、前記操作手段の設定の結果を受けて、前記音声認識手段からの音声データに対応する動作制御信号を生成するコマンド制御手段とを有し、前記プロジェクタは、プロジェクタ機能動作部と、前記プレゼンテーション用データを入力可能なプレゼンテーション用データ入力手段と、入力されたプレゼンテーション用データを処理して、出力すべきデータを生成するとともに前記プロジェクタ機能動作部への動作制御信号を出力するプロジェクタ制御手段とを有している。

## 【 手 続 補 正 6 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 2 0

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

## 【 0 0 2 0 】

また、このプレゼンテーションシステムにおいて、前記マイクロホン付きコマンドから前記プロジェクタに対して出力される動作制御信号は、表示する画面の順方向及び逆方向の送りを制御する信号、任意の画面を選択するための信号、一覧表示を行わせるための信号、プレゼンテーション用データが複数のファイルに分かれて存在する場合は、それぞれのファイルの切り替えや選択を行わせるための信号の少なくとも1つを含んでいる。

また、本発明のプロジェクションシステムは、プロジェクタと前記プロジェクタを音声によって遠隔制御可能なマイクロホン付きコマンドとを有し、このマイクロホン付きコマンドから出力された音声データによって前記プロジェクタの動作制御を可能とし、前記マイクロホン付きコマンドは、音声を入力する音声入力手段と、前記音声を前記プロジェクタ側で音声認識させるかまたは音声認識させないかを設定する操作手段と、前記音声を音声データに変換する変換手段とを有し、前記プロジェクタは、プロジェクタ機能動作部と、前記マイクロホン付きコマンドから出力された音声データのうち、前記操作手段にて音声認識させるとされた音声データを認識する音声認識手段と、プレゼンテーション用データを入力可能なプレゼンテーション用データ入力手段と、入力されたプレゼンテーション用データを処理して当該プロジェクタから出力すべきデータを生成するとともに前記音声データを受けて前記プロジェクタ機能動作部に対する動作制御信号を生成するプロジェクタ制御手段とを有している。